

2014 さようなら原発・核燃「3.11」青森集会

記 録 集

○日 時 2014年3月9日(日) 12時30分から

○場 所 リンクステーションホール青森



主催 なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク

事務局 青森県保険医協会 気付

住所：青森市松原 1-2-12

電話：017-722-5483

今が声をあげるとき

浅石 紘 爾

なくそう原発・核燃

あおもりネットワーク共同代表

あの日からわずか3年5ヶ月しか経っていないのに、あの時の記憶はどこに行ってしまったのでしょうか。

故郷を捨てなければならなかった人々の辛苦と絶望、自らの被ばくを覚悟で住み慣れた郷土に留まる人々の不安。他県の私には、その悲哀と憤りを推し量ることなど到底できません。福島原発事故の本当の原因はどこにあったのか、事故の責任を誰がどのようにして取ったのか。損害賠償だけで済む問題ではない。二度と“フクシマ”を起こさない担保と対策は用意されているのか。

こんな不安と疑問は置き去られたまま、3.11の記憶を消し去ろうとする動きが平然と進行しています。

人間は自己の罪業をいとも簡単に忘れることができるものなのでしょうか。原子力の安全神話を作り出し宣伝してきた自民党と原子カムラの面々が、何のためらいも反省もなく、その悪政に逆戻りし、原発再稼働に走る動機はいったい何なのでしょうか。一言でいえば、原子力産業にまつわる利権と核武装の情念と言わざるをえません。

安倍政権は右傾化を加速させています。靖国参拝、武器輸出三原則の緩和、原発輸出、特定秘密保護法の強行制定、そして集団的自衛権の閣議決定などなど。行きつく先は「普通の国」を目指して憲法9条改悪、国民徴兵制、核武装は目前です。そのためにも、再処理、プルトニウムは手放せない権益ですが、これは現在の憲法秩序の基本たる人権と平和の理念に真っ向から背反するものです。

政府が決めた「エネルギー基本計画」では、原発の再稼働と核燃の堅持が当然のごとく謳われています。まるで福島原発事故を歴史の1ページから消し去り、国民の多数が望む“ノーモアフクシマ”の願いを踏みにじる政治決定です。

原発再稼働を急ぐ政府の動きが活発化しています。ガリガリの推進論者であり、日本原燃など原子力産業と癒着した田中知・東大教授の規制委員の選任などはその準備工作の一つでしょう。この動きと連動して、日本原燃や東北電力は再処理工場と東通原発のバックフィット（適合性審査）申請をしたものの、申請内容不備で規制委員会から手厳しい批判を受けています。申請の事前了解を与えた青森県も軽率のそしりを免れません。

今年のさようなら原発・核燃「3.11」青森集会は、このような政治の逆行にくさびを打ち込み、原発の再稼働を許さず、再処理工場の本格操業阻止を目指す、現地青森の力強い意見表示であったと思います。

今が声をあげるときです。

来年、再来年と3.11は続きます。粘り強く、そして激しく、青森県民の反核の声をあげ続けましょう。

3.11 集会-開会挨拶 大竹 進 (なくそう原発・核燃、あおりネットワーク共同代表)

さようなら原発・核燃「3.11」青森集会に、多数参加していただき、誠にありがとうございます。この集会に対して、県内そして全国から寄せられた多大なご支援に厚く御礼申し上げます。

東京電力福島第一原発の事故から間もなく3年が経とうとしています。メルトダウンした原発からは、今でも毎日、空に地下水に、そして海へと放射能が漏れ続けています。昨年8月に300トン、今年2月には100トンの汚染水が漏れ、レベル3の重大な事故と評価されています。2月の事故では、未だに漏れた原因はもちろん、事実経過も明らかになっていません。東電はのらりくらり、迷宮入りを狙っています。

さらに、汚染水の放射線量がどれ位だったかも正確に測定できていません。β線を測定する方法がきちんと確立していません。東電は発表のたびに数値を訂正しています。測定している部屋の汚染がひどく、正確に測定できていないのかも知れません。かといって、東京の研究室で測定しようとしても、あまりにも線量が高く、持ち出すこともできないようです。正に、手術中に大出血させていながら血を止めようもしない。止める技術もない医師が手術を続けているような状態です。このままでは患者さんは死んでしまいます。手術チームから東京電力を外さなければいけません。

新たなメルトダウンが起こらないように懸命の作業が続いていますが、危険な綱渡り状態がいつ終わるのか予想もできません。「アンダーコントロール」など冗談じゃありません。未だに13万人をこえる福島県民が不自由な避難生活を強いられています。それにもかかわらず、政府・経済界・経産省は、原発再稼働、原発輸出、核燃料の再処理を進めようとしています。しかし、多くの人々は原発再稼働に反対し、現在動いている原発はありません。昨日から全国で「原発ゼロ」「脱原発」の集会がたくさん開催されています。全国の「さようなら原発集会」に参加している人々と共に、青森からも大きな声を上げたいと思います。

今日の集会には、子供から90歳を超える人までが参加しています。子供たちに放射能のこと、福島で起こっていること、全てを分かりやすく伝えることが大人の責務です。残念ながら、嘘をついている大人がいることも伝えなくてははいけません。そして、青森県の未来は子供たちに選択してもらいたいと思います。

チェルノブイリ事故の後16年の間に、ベラルーシの子供たち1700人が甲状腺ガンで手術を受けました。大人にも子供にも甲状腺ガンが増えましたが、特に子供のガンは100倍に増えました。原因として、放射性ヨウ素やセシウムが関係していると言われていいます。また、汚染水に多く含まれるβ線を出すストロンチウムが食品にいくら含まれているか、ほとんど分かっていません。ストロンチウムは骨に長期間蓄積するため、白血病と関係があるとも言われています。

福島はもちろん、日本中の子供たちの健康被害が心配です。「いのちはお金で買えません」「ふるさともお金で買えません」 お金のために、危険な原発・核燃と一緒に暮らすことはもうやめて、原発も再処理工場もない青森、安心できる青森を取り戻すために、「原発・核燃いらない」「大間原発反対」「再処理止めよう」の声を上げましょう。

鎌田 慧 氏 講演 発言録

| | 発言内容 |
|------------------|--|
| 原発反対運動の現状 | <p>現在は 50 基の原発が完全に停止しているという状況。原発反対運動が圧力となり簡単な再稼働は許さない。このまま再稼働は許さないという取り組みをしていく。</p> <p>3. 11 から 3 年が経ち、全国で反対運動がどんどん広がっていることを確認していただきたい。</p> <p>原発を推進してきた小泉、細川、菅、鳩山といった総理大臣経験者が自己批判をして、原発はもうダメだと言っている。これは世界史的にも例のないこと。4 人の元総理大臣が間違っていたと言っており、原発は間違いだったと断言している。</p> <p>地震国日本では元々無理だった。それが保守層や財界にも広がっていく。原発を止め、自然エネルギーへと向かい事業化する方向になっている。</p> <p>現政権は再稼働を狙っている。それは原発産業を維持するため、儲けるための論理でしかない。もう既に原発の安全神話が崩れ去った今、原発の再稼働は経済のためでしかない。電力会社、関連メーカーが儲かるためにやる。人命軽視の論理が再稼働の裏にはある。原発の再稼働はとにかく許さない。</p> <p>青森県に関しては、東電の東通原子力発電所は財政的にもう厳しいだろう。きちんと原発の建設中止を宣言すること。最も危険な再処理工場は絶対に稼働させないという決意で反対運動を強めていく。保守的な人たちも一緒になって運動を広げていくという状況にある。</p> |
| 福島の実況と 原発反対運動 | <p>今の福島の状況が、我々が再稼働を阻止するための大きなエネルギーにならなければいけない。そのため、我々の『さようなら原発運動』には『福島を忘れない』という副題がついている。福島の人たちと一緒に再稼働を止めるという目的だ。</p> <p>津波による被害のない、山側の人々でさえ帰ることができない。自分たちの地域がそのまま残っているにもかかわらず帰れないということ。</p> <p>一方、仮設住宅で窮屈な思いをして暮らしている人がいる。自殺者もいる。3 年経つが悲惨な状況だ。海岸線に並ぶ 100 機以上のタンクには、高濃度の放射能の水が溢れている。二度と同様のことを起こさず、福島の状況をどう解決していくかが問題。これが再稼働させない決意となっている。</p> |
| 国家の姿勢 | <p>青森市の空襲は 1945 年 7 月 28 日だった。当時の知事と市長は「逃げた者は 7 月 28 日までに帰ってこなければ市民権を剥奪する」と命令し、帰ってきた人が空襲で 1000 人以上死亡したという歴史がある。この時政府は『焼夷弾は怖くない。手袋をはめれば、掴まえて捨てられる』と喧伝していた。国は、国民の命より戦争</p> |

| | |
|------------------------------|--|
| <p>国家の姿勢</p> | <p>を継続する意思を大事にしていた。つまり、国民より国家を大事にしていた。</p> <p>現在、福島原発地域では除染が進められ、帰ってこいと言っている。放射能のことを無視して。これは当時の命令と同じこと。国は、国の権威や力、経済力を優先させ、人命をほとんど重視しない。少しぐらいの犠牲は仕方がないという姿勢だ。</p> |
| <p>折り込み済みの事故</p> | <p>原発は1万年に1回しか事故が発生しないと原発推進者は言っていたが、既に事故が折り込み済みだった。彼らは絶対に原発は安全だとしていたが、事故が起こることを知っていた。</p> <p>スリーマイル、チェルノブイリ、福島と続けて大事故が起こっている。元々原発は制御できないものだった。ましてや日本は地震多発地帯だ。</p> |
| <p>軍事政策と結びついた原発政策</p> | <p>当初、青森県の再処理工場は1兆円のコストだと言われていた。この計画は1985年に発表されたが、計画が実際に動き出したのは1969年だ。新全総の巨大開発に六ヶ所の核施設が入っていた。当時の県知事が秘密にし、1985年に電事連が申し入れて決まったという形になっている。それから25年以上経つが、まだ工事は終わっていない。つまり、出来ないということ。「もんじゅ」はもう出来ないだろう。</p> <p>しかし、安倍政権はまだやると言っている。原子力条項に『安全保障に資する』という文言を新たに入れた。つまり、原発政策は安全保障政策、日本の軍事政策と結びついた。原子力と軍備が一体化したものが原子力条項の改定だ。</p> <p>宇宙開発法にも『安全保障に資する』と明記された。つまり、宇宙開発のミサイル建設と再処理工場から「もんじゅ」のプルトニウム抽出作業まで一貫した体制になっている。</p> <p>漸く日本が原発にこだわっている理由が分かった。いざとなったら核武装もできるという条件も残しているということだ。</p> |
| <p>青森県の再処理工場と反対運動</p> | <p>これからの問題としては、青森県はどんな条件があろうと再処理工場は絶対に動かさないこと。全国的な運動にして、とにかく再稼働を阻止する。そのような運動がこれからの青森県、子供たちを守る運動だ。青森の今までの運動が全国的なものになったと思っている。</p> <p>東通原発も大間原発ももう無理だろう。全力を挙げて再処理工場に反対していく。東通原発も大間原発も阻止していくという意思で本日のデモ行進に参加し、一緒に頑張りたい。</p> |

| | 発言内容 |
|--------------|--|
| 青森県の原子力施設と地震 | <p>《原発施設に対する津波の想定高さについての一覧表》</p> <p>福島第一原発で5.4m。5.4mの想定に対して、実際は14mの津波がきてしまった。青森県の施設も福島と大体同水準の4m～6m。弘前大学の地震学研究者によれば、八戸から下北半島北端の太平洋側では20m、下北半島北部沿岸地域では十数mの津波が到達する可能性があるとのこと。そのため、青森県の原子力施設の現状想定では、まだまだ足りない。</p> <p>《3年前の地震での青森県の施設》</p> <p>六ヶ所村の使用済み核燃料貯蔵プールから600リットルの水が溢れたという報告があった。その時の余震では冷却用ポンプの非常電源1機が動かず、残りの1機で辛うじて難を逃れた。青森県としてもギリギリだったといえる。</p> |
| 軍事施設と原子力施設 | <p>青森県の特徴として、原子力施設が多いという他に軍事施設が随所に点在することが挙げられる。なぜ集中してしまったのか考えることも重要。</p> |
| 六ヶ所核燃料サイクル施設 | <p>六ヶ所核燃料再処理施設には複数の施設が存在するが、再処理工場が一番特徴的。</p> <p>《再処理工程について》</p> <p>燃料棒はまず一旦水で冷やす。そこには既に3000トンの核燃料がいっぱいになっている。そこから順に取り出し、燃料棒をギロチンのように切り刻む。中身を露わにして硝酸に溶かしながら、ウランとプルトニウムに分離する。その際、どうしても取り除けない高レベル廃棄物は残る。この過程で、どうしても取り除けないガス状の放射性廃棄物は、150mの煙突から薄めて少しずつ排出する。液体状のものは海中に薄めながら少しずつ流すという工程。プルトニウムは単独では保管できないため、ウランと混ぜMOX燃料をつくり、さらに原発で使う。最終的に高レベルで廃棄となったものは、ガラス固化体というものに固め、地中深くに処分する。これまでガラス固化体を作る過程がうまくいかず、再処理工場の足を引っ張ってきた。高レベル廃液とガラスビーズを溶かして、ドロドロのまま中でさらに溶かして、キャスクの中で固化するという形になる。</p> <p>《再処理工場の危険性》</p> <p>① 燃料棒の切断という過程 ② 切断した燃料棒を硝酸溶液へ入れて溶解する過程 原子力発電所は5つの壁で護られていることを強調しているが、それを自ら壊す過程が再処理工場に存在している。 ③ 放射性気体の空気中への放出 ④ 放射性液体の海中への放出</p> |

| | |
|--------------------------|---|
| <p>六ヶ所核燃料 サイクル施設</p> | <p>液体は沖合 3 km、深さ 44mのパイプから流される。</p> <p>⑤ 使用済み核燃料プール 既に全国の核施設から集まったものは 3000 トンでいっぱいになっている。</p> <p>正常に運転していても①～⑤の危険性がある。燃料プールはただ冷やしているだけだが、水素爆発を起こすことが福島第一原発第 4 号機で実証された。さらに福島の事故のように電源喪失が起きた場合、臨界事故並の放射能が拡散する恐れもある。</p> <p>《六ヶ所MOX燃料工場》 ウランとプルトニウムの酸化物を、さらに燃料として使う工場が福島の事故後に再開された。ここでできたMOX燃料を大間原発で発電に使うという目論見。</p> |
| <p>青森県 各原子力施設</p> | <p>《むつ使用済み核燃料中間貯蔵施設》 六ヶ所村の 3000 トンが既にいっぱいになってしまい、日本全国から集めた使用済み燃料の行き先がない状態。そこでむつ市が受け入れ。これまでの施設との大きな違いは、燃料をプールに沈めて冷やす方式ではなく、空冷で冷却する方式。アメリカの研究者は、むつ市で導入するこの空冷方式の方がまだ安全だと報告していた。だがコスト高であるため、日本では今までプール方式だったのではとも語っていた。</p> <p>《東北電力東通原子力発電所》 福島の事故により中止している。施設の下に活断層があるのではないかと調査が進んでいる。</p> <p>《東京電力東通原子力発電所》 福島からでも大消費地まで距離があるものの、青森から都会の消費地に電力を送電する。ここは用地が買収されただけでまだ建設されていない。但し、中止したわけではなく建設が始まるかもしれない。</p> <p>《大間原子力発電所》 現在建設中。非常に危険なフルMOX燃料を日本で初めて発電に使う。大間の発電所の敷地内に、熊谷あさ子さんという方の自宅があり、断固としてその土地を売らなかった。通路だけ残して外は全て原発の敷地になっている悲惨な状況。</p> |
| <p>青森の断層</p> | <p>下北半島には太平洋沖の方から大きな断層があり、その先に出戸西方断層が存在する。さらにその先には六ヶ所の施設がある。太平洋沖の方からの大きな断層と出戸西方断層が繋がっているとすれば、相当大的な地震の危険があるという研究者内の見解がある。六ヶ所の施設の下は、断層が存在する場合にみられる撓曲との見解を東洋大の渡辺教授らが示したが、日本原燃は撓曲ではなく海岸段丘だとして決着がついていない。 我々市民の手で露頭調査を行い、最後にボーリング調査という、あと</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| <p>青森の断層</p> | <p>一步というところまで来たが、むつ小川原開発株式会社の許可が下りなかった。</p> <p>《断層の危険性がある六ヶ所村で事故が起きた場合》</p> <p>福島と同様の事故が六ヶ所で起きた場合、青森県全域はもちろん、北は室蘭、南は北東北全体にわたって汚染領域が広がる危険性がある。</p> <p>仮に1%でも高レベル放射能が放出された場合、六ヶ所村近辺では半数の人が亡くなる。全員避難しなければならない領域は青森県全域。乳幼児の避難領域については、北は北海道、南は仙台までという予想がされている。六ヶ所村の施設で事故が起きた場合、相当なことになる。</p> |
| <p>原子力施設の コスト</p> | <p>《当初の予想コストと現実》</p> <p>当初、再処理工場のコストは約7000億円と予想されていたが、現段階で既に約2兆1930億円。最終的なコストがいくらになるかまだ分からない状態。ほぼ予想の3倍になってしまっている。</p> <p>《バックエンド費用》</p> <p>今後コストがどのくらいかかるかを計算したとき、合計18兆円かかるという試算がある。立命館大学の島教授が試算している。この金額は電気料金に含まれていない。今、原子力を再稼働させず、火力発電に用いる燃料の輸入量増加が電気料金値上げの主因だという論調だが、バックエンド費用を含めれば原子力発電のコストは相当なものだ。</p> <p>アメリカでは、原子力発電は経済的には破綻していく斜陽産業だと報告されている。</p> |
| <p>核燃マネー</p> | <p>核燃マネーには裏と表がある。電源三法交付金で青森県に1800億円、六ヶ所村に350億円入り潤ったという光の面もあるが、核燃マネーでできた施設を見ると誰もが違和感を覚える。</p> |
| <p>首長等 アンケート</p> | <p>青森県の議員、首長に対して福島の事故前と事故後に、本当に核燃料サイクルに期待するかという旨のアンケートを行なった。事故後、議員、首長は逆に期待するという声が増えた。青森県であれば大丈夫、青森県こそ、これが必要だと考え出した結果だ。組織の長となる人の中では脱原発が進んでいない。</p> |
| <p>終わりに</p> | <p>《高木仁三郎氏『原発事故はなぜくりかえすのか』》</p> <p>原子力時代の末期症状による大事故の危険と、結局は放射性廃棄物が垂れ流しになっていくのではないかということに対する危惧の念は、今、先に逝ってしまう人間の心を最も悩ますものです。後に残る人々が、歴史を見通す透徹した知力と、大胆に現実に向かい活発な行動力をもって、一刻も早く原子力の時代にピリオドをつけ、その賢明な終局に英知を集結されることを願ってやみません。</p> <p>今は亡き高木仁三郎さんのメッセージ。後半には、今後我々がやっていかなければならないことが載っている。この言葉を胸に、私の報告を終わらせていただきたい。</p> |

アーサー・ビナード氏 講演 発言録

| | 発言内容 |
|---------------------------------------|---|
| <p>青森との出会い、 繋がり</p> | <p>ミシガン州で生まれ育ち、22歳で日本語に出会い、大学卒業時に東京に行こうと思った。その時は、東京が具体的に日本の中でどういう存在なのかも知らなかった。もちろん、青森という美しい場所があることも知らなかった。何も予備知識がないまま、日本語への興味に引張られる形で日本に来た。</p> <p>日本に来て4年目の時、青森と深く関わっている方と出会い、旧百石町で講演の機会をいただいた。その際、青森放送のディレクターにラジオをやらないかとオファーされ、約20年前から青森を毎月1、2回訪れることになった。それがきっかけとなり、現在様々な場所で講演する機会をいただいている。</p> <p>初めて青森に来たのは夏が終わろうとしていた頃。空気の匂いがミシガンとそっくりだった。東京にいとミシガンの季節とズレるが、青森に来て久しぶりに故郷の季節と繋がった。故郷と繋がっている思いと同じようなものを青森に抱くようになった。ミシガンもリンゴを沢山つくっているところ。ふじ、むつ、つがるもミシガンで売られているという繋がりも。</p> <p>2、3ヶ月経った頃、もう一つの繋がり気づいた。ミシガン州は指の別れていない手袋のような形をしているが、ミシガンの人たちは自分の出身地がどこにあるかという話になると手を使ってジェスチャーする。青森にもジェスチャーして伝える人たちがおり、繋がりを感じる。そのようなことから、青森に来ると帰ってきた気がする。</p> |
| <p>青森と作品、 青森の扱われ方 に対する疑問点</p> | <p>日本語で詩を書けるようになったばかりの頃の作品にも青森が登場する。青森というタイトルの詩もある。</p> <p>《作品の一部を抜粋し朗読》</p> <p>『最終のはつかり号で青森駅に到着。多くのコンクリートの上で粉雪が風をパートナーに踊っている。コートのポケットからウールの帽子を出して被る。ビジネスホテルまでの地図も取り出し、チラチラ見ながら新町通りのアーケードを歩いていく。青森グランドホテルを過ぎ、パチンコ屋も過ぎて、次の角で左へ曲がればよいのかと思っていると、左の道から中年男が二人肩を組んでフラフラと現れた。すれ違い、一人が僕に気がついて立ち止まり、向こうからこっちの顔をジーツと覗む。僕もジーツと見返す。数秒経って、男の顔は綻び、バツが悪そうにして相手を肩をひっぱたいて、ロシア人だ。間違いない。本物のロシア人。そう言われて僕はダスビダーニャ。唯一覚えていたロシア語を披露して再び歩き出した。フランス人かイタリア人に間違えられることはあるが、本物のロシア人は知り合いにだっていない。昔、父がメイド・イン・ロシアの毛皮の帽子を奮発して買い、冬の間中、誇らしげに被った。ミシガンの人がロシア人みたいとからかうと父は笑って、ダスビダーニャと答えたものだった。いつかコサックダンス</p> |

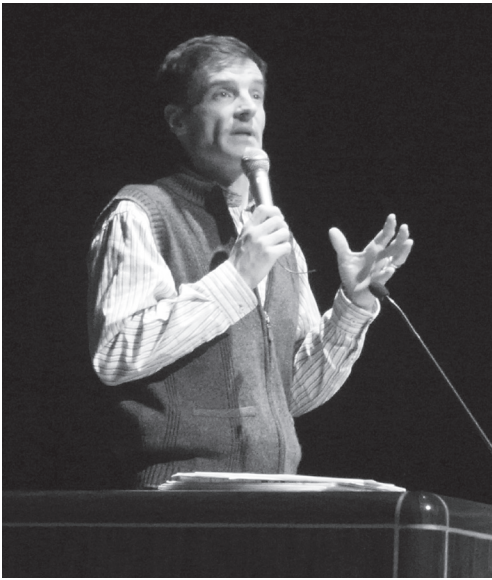
| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>青森と作品、 青森の扱われ方 に対する疑問点</p> | <p>の下手な真似も付け加えたりもしていた。2、3年して父は死に、あの帽子はどこへ。僕に残されたこのロシア語さえ、一体「こんにちは」だったか。「こんばんは」だったのか。いや、「さようなら」だったのか。気がつくともビジネスホテルを通り過ぎて、僕はもう黒々とした海が見えるところまで来ていた。』</p> <p>こういう形で青森が僕の中で根づいている。自分の故郷と重ねながら考え、青森で様々な人と出会い、仕事をし、知っていく中で青森が日本の中でどのように扱われているか少しずつ見えてきた。</p> <p>青森の豊かな自然環境。美しく、時には厳しい山があり、とてつもなく豊かな平野。海を最大限に活かすことが可能な半島。美しい湾。この青森が持っている、世界的にも驚くほど豊かな環境と青森の経済がどうにも噛み合わない。バランスがとれていないことに自分も少しずつ気づき、段々腹が立ち、ムカつくような気持ちが十数年間継続している。</p> <p>青森の食料自給率は100%を越えている。青森で生活に必要なものは全て作ることができ、現にそれを一生懸命作っている人々が根差した暮らしをしている。にもかかわらず、一人当たりの平均収入の統計を見ると、どうにも噛み合わない。そこに疑問を抱くようになり、だんだん、なぜそのような状況であるのか分かってきた。</p> |
| <p>『はらぺこ青森』 演題について</p> | <p>世界で一番読まれている絵本は、エリック・カール氏著の『はらぺこあおむし』。今回の話のタイトルは『はらぺこ青森』。『はらぺこあおむし』は、生まれたばかりの青虫は生命力がどんどんどんどん湧き、お腹が空いてどんどん食べるという、ある意味食育の本。普通の虫では食べないくらい食べて成長していく。そういう力が青虫にはある。</p> <p>僕は青森を全て知っているわけでもなく、青森を見渡しているか自信はないが、自分の知っている青森にも同じような生命力があり、根差した暮らしをしている人々は皆、そういった力を秘めているように感じる。</p> <p>だが、『はらぺこあおむし』の主人公は、食べて食べて食べて、時には食べてはならないものも食べておなかを壊すが、立派に成長し最後に蝶蝶に変わる。青森はどこに行こうとしているのか。青森が持っている力を青森に生活していなくとも感じることはある。</p> <p>ねぶた祭りに参加した東京、広島、鹿児島の人々も皆、もろに全身で受け止める。青森の力は今も健在だと。だが、青森が成長する地域なのか。どういう未来があるのか。青森は蝶蝶になろうとしているのか。大きな流れとしてどこに向かおうとしているのか。</p> |
| <p>最終処分場と 日米政府の関係</p> | <p>再処理工場に1兆円超の税金が投じられたが、それがめぐりめぐって青森の繁栄につながることはあり得ない。だが、再処理工場がなくなることはない。核の捨て場となる。いくら県知事が喚こうが、撤去されることはない。そこに青森の一つの未来の種が見える。</p> <p>むつの核のゴミの中間施設も、青森が今後どんな発展を成し遂げようと消えることはないだろう。受け入れてしまった以上、撤去することが難しい。だが、諦めて補助金で生活すればよいかというように</p> |

| | |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">最終処分場と 日米政府の関係</p> | <p>はない。ここで踏みとどまり我々が抵抗しなければ、将来もっと残酷な形で様々なものを背負わされるように思う。</p> <p>ミシガンにも核施設、原発がある。原発から作られたプルトニウム、セシウム、ストロンチウムといった物質をどこに運ぶのか、アメリカ政府は明言しない。私の故郷も生き物とは対極にある殺人物質を大量に抱えている。だが、青森の現状を見ていると、ミシガン以上に残酷なものが見え隠れする。</p> <p>私の邪推だが、日本政府以外の巨大勢力に利用される可能性もあるのではと思う。アメリカ政府も最終的な処分場は持っていない。ネバダ州のヤッカマウンテンに作ろうとしたが、住民運動もあり頓挫した過去がある。日本も最終処分場は決まっていないと政府はよく言う。日本の役人がアメリカ政府代表団にくっついてモンゴルに行き、モンゴル政府に大量にお金を渡すから受け入れてもらえないかと交渉したが、断られた。最終処分場を他国に求めるアメリカ政府の勢力に日本政府がくっついていくということは、日本政府がアメリカ政府と一緒に最終処分場のことを考えているということ。アメリカ国防総省ペ『テ』ンタゴンは最終処分場の狙いをどこにするか定めているが、公に明言していないだけ。モンゴルに行き交渉した目的は、本当に捨て場を求めているのかもしれないが、パフォーマンスかもしれない。</p> <p>今のアメリカ政府と日本政府は一緒に何かを考えているというが、両者は主人と奴隷の力関係。そういう相手と最終処分場を考えるということは、アメリカが作ってきた想像を絶する核のゴミの捨て場が日本になるかもしれないということ。裏が取れている話ではないが…。つまり、アメリカ政府の世界戦略の大きな企みの中で、日本が一つの駒として使われ、日本が核の捨て場とされる。福島が、青森が。私はそれが恐ろしくて眠れないこともある。青森が核の捨て場にされかねないと。下北半島の地図を見ると、絶対に許してはならない未来が見え隠れする。</p> |
| <p style="text-align: center;">アメリカの エネルギー政策の 本質</p> | <p>最終処分場をなんとかしなければならぬという大前提は、これから一切、核分裂をやってはならないこと。どうにもならない物質が増え、核のゴミが増え、被曝する労働者が増え、出口のない方向に進んでいるということは、永田町のアホな議員でも分かること。アメリカ国防総省が出口のないことをすると考えられますか？アメリカは出口戦略ばかり。どんな状況でも必ず出口戦略がある。アメリカ政府もウォール街も。出口戦略は既に動き出している。</p> <p>日本の一般人には、出口戦略が次の段階に進んでいることが見えていない。だが、完全に次のステップに進んでいる。オバマ大統領の今年の一般教書演説をご覧になりましたか？今年はエネルギー政策が中心。アメリカのエネルギーの独立。他国の石油に依存しないエネルギー政策をどうするか。再生可能エネルギー、シェールガスをいかに効率良く利用していくかということを訴えていた。原発には一切触れず、まるでこの地球上に原発は存在しないかというような演説だった。</p> <p>原発に触れないことにどういう意味があるかということ、アメリカ政府、ウォール街は原発をやらないということ。ジョージア州に新規の</p> |

| | |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">アメリカの エネルギー政策の 本質</p> | <p>原発の話があつたが、それも立ち消えになるだろう。もちろん再処理もやらない。そういうことが大統領の演説から簡単に読み取れる。日本のマスコミも分かるはずだが、一切触れない。</p> <p>オバマ大統領の本質はエネルギーの転換。ドイツは新しい自然エネルギー利権を作ることを内外に示している。アメリカは原発利権が続くことも望んでいるが、儲からないことはやらないという方針。ドイツと同様に大きく舵を切っている。アメリカ政府は明らかにエネルギー、原発政策の転換をしている。</p> <p>アメリカにとって奴隷国家である日本は、ホワイトハウスの言いなり。TPP、思いやり予算、オスプレイ。それが日米関係。にもかかわらず、原発に関しては正反対。なぜ、いつもアメリカのイエスマンな国家が逆方向に進んでいるかということ、アメリカを中心とした国際資本が日本に課した課題、命令なのではないか。アメリカ、ドイツ、フランス、日本も皆、一斉に原発を止めるとなると、現在の原発利権構造が一気に崩壊する。そうなるとウォール街が困ってしまう。損しないように利権のからくりを維持しなければならない。早い者勝ちで強い者から抜ける。</p> <p>ドイツはあまり利権構造に入っていなかったから抜けた。市民の力も大きく、脱原発でなければメルケル政権は倒れるという判断もあつた。アメリカ政府は儲からないから抜けようとしている。再処理もそうだが、儲からないことは日本に命令してやらせる。儲かることは先にアメリカ政府、企業がやる。東芝も日立も、原発部門をアメリカから押しつけられ、買わされた過去がある。これからまた日本がまたバカをみる。</p> |
| <p style="text-align: center;">マスコミのペテン</p> | <p>再処理工場のコストを考えれば、経済の論理、地球環境という観点からもあり得ない不条理な世界。それでも何がなんでもやろうとする。日本の原発利権はこれでないとは維持できないとなると、税金をもってきてやろうとする。</p> <p>あり得ないことが堂々と CM、新聞広告、企業、政府から発表される中で我々は暮らしている。騙されていない人の方が多い印象を受けるが、毎日ペテンを浴びせられているとそれに慣れてしまい、なかなか抵抗できない。</p> <p>昨日の日経新聞には『進むか再稼働』とあり、つまり進まなければならぬものが進まない、というような書き方がなされており、まるで言葉のマジック。『安全審査が遅れている』。</p> <p>電気料金の再引き上げ検討は、アベノミクスの影響で他国から輸入する資源が高値になっていることが原因。にもかかわらず、さも原発再稼働がなされていないことが電気料金値上げの原因であるかのような書き方だ。電気料金の再引き上げ検討と原発停止は無関係であることを分かった人間がこの記事を書いている。</p> <p>子供の被曝や住めなくなってしまった浜通りの人々のことよりも、原発再稼働がなされないことによる関西電力の赤字の方が問題だ、というような記事も見受けられる。日本の経済を語る新聞が、このような記事を書くことに日本の存亡の危機が表れている。</p> |

| | |
|---|--|
| マスコミのペテン | これが日本の現実と噛み合わないマスコミの作り出した世界。 |
| <p>満たされない 『はらぺこ青森』 とならないために</p> | <p>3.11 から 3 年。我々が一番やらねばならないことは何か。我々の経済を、振り回されるマネーゲームから実態のある経済へ。生活を次世代まで支えるような経済も大切だ。大手企業、永田町に従属するような地域社会ではなく、自分たちの未来をつくる経済へとしていかなければならない。</p> <p>だが、それを全て一度にやろうとすると、どこから手をつけていいか分からない。日本がアメリカの最終処分場にしないためにどうするか。奴隷国家から脱し、建設的な役割を果たす真の独立国家となるためにどうするか。</p> <p>脱原発はもちろん、脱 TPP も大事だ。脱しなければならぬことは沢山あるが、全てに共通することは脱おたんこなす。騙されることに終止符を打たねばならない。そうしなければ次々とペテンがくる。原子力の平和利用の化けの皮が剥がれた時に、積極的平和主義という外交政策。同じことでも、言葉が少し違っていると騙されてしまう。引っかけたり数年経過した後ではもう間に合わない。そうならないためにも、我々はより瞬時に出てきたものに対して、専門家だけではなく、皆でそれを見抜いて闘う。自分の見抜く目をどこに据えるか。</p> <p>青森の美しい海と森の持っている力。それを中心に据えて考えていけば、袋小路から抜けられるだろう。大変な圧力や負担を背負わされるかもしれないが、その闘いをやらねばずっと満たされない青森になってしまう。</p> <p>下手すると取り返しのつかない、更に大きなものをかぶせられるかもしれない。そうならないために皆さんと共に闘っていきたい。</p> |

2014
 さようなら原発・核燃「3.11」青森集会
 ミニフォトアルバム



アーサー・ビナード氏



鎌田 慧氏



浅石 紘爾氏



大竹 進氏



宮永 崇史氏

*No More
 Fukushima!*



のぼり旗を掲げて中心街をデモ行進



大ホールに 1300 名



韓国のメディアも取材にやってきた

集会アピール

東京電力福島第一原子力発電所の事故発生から3年目の今日、私たちはさようなら原発・核燃の早期実現を願ってここに集いました。

福島原発事故の被災地は、3年が経過しても当時と何ら変化がありません。現在でも15万人が地元を追われ、県外や仮設住宅での生活を強いられています。また、今も大気中と海水に放射能がばらまかれているのが実状です。

福島原発事故が、地震及び津波によるものなのかの結論は出ていませんが、東京電力が経済性を追求し、意図的に「安全神話」を振りまき、何ら地震・津波に対する対策も取らなかったことに起因していることは確実です。

事故発生から今日に至る間、原発からの放射能汚染が続いています。しかも、原発事故の収束や除染、解体等、損害賠償等に係る膨大な費用を、安倍自民党政権は国民負担にするべく国会に法案を提出しようと考えています。国民に負担を押しつけるのではなく、東電を破綻処理し、国が全責任を負って事故収束に乗り出すことを一番に求めます。

福島原発事故後、国は安全対策が不備であったと認め、昨年7月8日に原発、12月18日に核燃施設の新規制基準を施行しました。しかし、同基準は核施設の技術的な改善のみに矮小化し、原発の再稼働・建設再開、サイクル事業の操業を前提にしたものであり、何ら期待ができない「基準」です。

日本原燃は1月7日、リサイクル貯蔵施設は1月15日に安全審査を原子力規制委員会に申請しました。現在、国が審査中ですが、放射能放出の過酷事故への備えに、作業員による安全対策を求めています。正に身を挺して被ばくする犠牲者を求める危険施設であり、こんな非人道的・人間的な施設は、そもそもあってはならないものです。

青森県民の命を守るべき三村青森県知事は、活断層地帯の下北半島に原子力施設を受け入れ、安全対策を事業者と国に押し付けながら、核燃料税の値上げを決めるだけです。こんな無責任知事は、県民から理解も得られず、信頼も失うことを知るべきです。なお、日本原燃にしる、リサイクル貯蔵施設にしる、筆頭株主は経済的に破たんした東京電力です。本来は会社としての存立さえも疑われる両社が、これから放射能をばらまく再処理事業を行い、核のゴミを預かる事業を展開するなどということは、私たちは絶対に認めません。

現在、全原発が停止しているのに、電気の供給に何ら不安がないことを各電力会社が明らかにしました。もともと原発がなくても電気は供給可能だったのです。それを電力会社が、営利優先で隠して続けてきただけなのです。

「原発なくても電気供給に問題なし」に確信を持ち、子供たちの未来のために、エネルギー政策の転換と原発・核燃施設の廃止を求め、全国の仲間と手を携えて闘い続けましょう。

2014年3月9日

2014 さようなら原発・核燃「3.11」青森県集会参加者一同